

第 37 回茅野市新地域公共交通検討会議

開 催 日 時	令和 8 年 7 月 2 日（木） 午後 6 時 00 分から午後 7 時 00 分まで		
開 催 場 所	市役所 8 階大ホール		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍 聴 者 の 数	2 人
議題及び会議結果			
発 言 者		協議内容・発言内容（概要）	
事務局	会長	第37回茅野市新地域公共交通検討会議を開催。 詳細は下記のとおりです。 1 開会 第37回茅野市新地域公共交通検討会議を開催いたします。	
		2 会長挨拶 皆さん、こんばんは。大変大勢の皆さんにお集まりをいただきました。本当にありがとうございます。前回、私の療養が原因で1回お休みをいただきました。今日は第37回ですが、その前にも委員さんたちと役所の関係で打ち合わせをしてきましたので、回数としては今回で74回目ということになります。その中で1回休んでしまったことは、非常に皆さんに申し訳ないと思うわけです。これからは、なお健康に留意して頑張っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。 本当に使っていただける皆さんに優しい、いいものにしていきたいと考えております。是非ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。	
会長	委員	3 報告事項 (1) AIデマンドバスとタクシーのハイブリット運行による免許返納 モニター実証実験報告について ——資料1をもとに三井住友海上火災保険株式会社より説明—— 今のご報告の中で、皆さんの中でご質問、ご意見がございましたら挙手をお願いいたします。 運行事業者の皆さん、参加されていかがですか。お願いします。	
		私どもはタクシー事業者ではないので、「のらざあ」のみでお客様をお連れしたというところではあります。お聞きしますと、やはり初めて乗ったか、乗る予定をしていなかった方が主でしたので、最初はかなり戸惑いがあったようですが、何回も乗ることによって、理解を深めていただけたなと思っております。	
会長	議員	4 協議事項 (1) 「のらざあ」利用料金等の見直しについて ——資料2をもとに事務局より説明—— 委員がお忙しいということで、代理で議員にご出席いただいております。議員さんのご意見を承りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。	
		今の運賃の割引の話ですが、65歳以上の方はどんなに長く乗っても300円です。 「のらざあ」とは別の話となりますが、今度この蓼科方面の路	

事務局	線バスの実証運行がありますので、この路線バスと「のらぎあ」の料金の整合性はどうなっていますでしょうか。また、料金の見直しはやむなしとのことですが、「乗合」の部分を経料金の見直しと同時に変更するなどの取組は、絶対に頭の片隅にはなくてははいけないと思っています。ここがどうなっているのか、教えていただければありがたいです。 今回ご提案させていただいた内容につきましては、議員のご指摘のとおり、距離が長くなればなるほど負担が大きくなります。その上で、蓼科湖方面バスの実証運行の運賃につきましては、これまでとおり高齢者の方は300円でご利用いただけるような運賃を設定したいと考えています。 乗合については、約50%が乗り合っている状況です。
議員	分かりました。私は山の方に住んでいて、蓼科湖方面バスの実証運行はとてもありがたいですが、障害者とか高齢者の割引が半額でも、「のらぎあ」は利用距離が長いほど運賃が高くなり、一方でバスは遠くから茅野駅まで20km以上あっても300円定額ということは、公平性はどうか。安いのはありがたいですが、料金の設定方法はこれで大丈夫かなと思います。また、「のらぎあ」の乗合率を上げないと、どうしても常に料金を上げることに繋がりますので、その辺も考慮していただきたいと思います。
会長	それでは、協議ですので、事務局の説明した内容で進めさせていただくことを「よい」という方は、挙手をお願いいたします。 (挙手を確認) ありがとうございます。全員の方に挙手をいただきまして、この内容で進めさせていただきます。よろしくをお願いいたします。 (2) 蓼科湖方面バス 令和8年度の実証運行について ——資料3をもとに事務局より説明——
会長	今のご報告の中で、皆さんの中でご質問、ご意見がございましたら挙手をお願いいたします。
委員	北山地区、緑の村自治会の代表をしております。蓼科湖方面バスの運行ルートですが、現状から申し上げますと、緑の村は運行圏外になっています。使いたくても使えないという状況です。他からも特に別荘地で、そういう声を多く聞いています。 今回の運行ルート又はダイヤについては、事務局へ一任したいと思っていますが、今後運行ルートを再考する際に、一つ課題として取り上げていただきたいと思います。
事務局	今回の実証は、北八ヶ岳ロープウェイ線が、平日では駅周辺に滞在できる時間が2時間しかないことなどを踏まえ、日常の生活で使えるバスを補い、蓼科方面へ行く足を確保したいというのが目的です。緑の村までのバスにつきましては、白樺湖・車山高原線などの路線がございます。 令和6年度に策定した「茅野市公共交通ローリングプラン」では、まずは蓼科方面の足を充実させることを優先して取り組むと

会長	しています。ただ、このプランも3年間の計画ですので、見直しの際に、またご協力いただければと思います。 私も仕事では緑の村の皆さんにお世話になっていますし、北山の方々とはずっと小さい時からの付き合いですので、本当に申し訳ないなという部分もあります。最終的にはやはり茅野市内全域が「のらぎあ」でカバーされることが当然と思っています。 現状、バスの運行路線の関係もありますので、少しずつ改善していくつもりでいます。是非皆さんの方で声を大きく、要望を出していただくということも大事だと思っていますので、まだ一つの段階であるのご理解いただきたいと思います。
委員	蓼科湖方面バスについては、特にチェルトの森方面の路線とは全然違いますし、現状「のらぎあ」が来ているので。別荘の問題としては、管理事務所から個別の別荘までが大体4kmぐらいありますから、その送迎をどうするかと考えています。現実的には市の財政の問題もありますが、基本的に各別荘事業者の中で、どこまでできるかを検討していくことが必要と思います。当然、将来的には、篠原会長が言われたように、全域に「のらぎあ」が来ていただけるというのが一番いいかと思います。
議員	実証実験ということで、とてもありがたいですが、一番の願いは早い時間帯と夜遅い時間帯の運行があれば、その中で使えるということです。運行ルートですが、蓼科の別荘地の人は高齢化率が50%以上とすごく高い中、始発地が入っていないのはどうかと思います。もう一つ、以前の生活路線バスはほとんど空気を運んでいた状態でしたので、あまり利用されることを想定できないと思います。ただ、どうしても使う人は使います。何が言いたいかというと、この27人乗りの車両でなく、もっと小さくて良いので、走らせてほしいということです。
委員	一つ確認ですが、北八ヶ岳ロープウェイ線とバス停が一部重複しています。使用については、現在の北八ヶ岳ロープウェイ線と同じバス停を使用されるということでよいでしょうか。同じ場所ですと、料金が違うバスが交互に運行することになりますので、観光などで利用される方などが混乱しないように是非ご配慮いただきたいと思います。実際には、バス停をもう一本立てられるというイメージでよいでしょうか。
事務局	位置としては同じ場所を想定しています。別途調整させていただきますが、運行する車両が異なりますので、分かるようにしたいと思っています。蓼科方面バスは、基本的には地域にお住まいの方のご利用を主に想定しています。観光の方も一部利用されるかと思いますが、バス停などで明らかに分けられるように設置できればと思っています。
会長	同じバス停で、運行車両がアルピコ交通株式会社と違う車で、料金も違ってきますので、実はとても心配はこちらもしています。最初から全て問題なしとは考えていません。もし何か、実証運行の間にありましたら、ご相談させていただくということでお願いをしたいと存じます。

会長

質疑がなければ、今後の調整もありますので最初に「運行ルートと実施スケジュール」について議決をいただき、そのあと、業者さんとの打ち合わせがまだ完璧ではありませんので、「運行ダイヤと利用料金を事務局に一任していただく」という2つに分けて採決に移りたいと思います。

最初に、運行ルートと実施スケジュールについてご賛同いただける方は、挙手をお願いいたします。

(挙手を確認)

はい、どうもありがとうございました。それでは、このような形で進めさせていただきます。

次に、運行ダイヤと利用料金を事務局へ一任していただくということで、採決をとりたいと思います。事務局へ一任することをご同意いただける方は、挙手をお願いします。

(挙手を確認)

はい、どうもありがとうございました。では、そのように進めさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

5 その他

特になし

6 閉会

副会長

ありがとうございました。先ほどあった、この茅野市内、町中を「のらざあ」が走るという理想を抱きながら進んできて、少しずつ「のらざあ」も育ってきたと思います。現在は原村でも「のらざあ」が運行され、この10月からは富士見町でも実証運行が開始されるという状況です。この諏訪地域の南側の3市町村が「のらざあ」を、地域住民の皆さんのための足として導入するところまで来ました。

今後、地域の生活圏の足をいかに確保するかという点で、市町村の枠、あるいはさらに県境を超えたものの見方が必要になってくると考えています。茅野市においては、パートナーシップのまちづくりという理念と実践がありますので、私もその理念に基づいてこの会議に参加させていただいております。

先ほど乗合率の話が出ましたが、それを高めるための取り組みに行政側だけで取り組むには限界があると思っていて、やはり住民側が積極的に取り組むということも必要ではないかなと思います。行政と共に市民がその政策を育てていくという関わりも引き続き必要だと思いますので、議員の皆さんも地域の代表として、一緒にお考えいただけるとありがたいと思っています。力を合わせて、この「のらざあ」が乗合率高く使われるようになれば、新しい形でのコミュニティ作りにも貢献できるのではないかと思います。以上を私の挨拶として、これで本会議を閉会にしたいと思います。お疲れ様でした。ありがとうございました。